



秋剣連

発行

秋田県剣道連盟

〒010-0914

秋田市保戸野千代田町14-12

SAKAEビル 2F-B

TEL 018-883-0680

FAX 018-883-0663

E-mail a-kendo@abelia.ocn.ne.jp

http://www18.ocn.ne.jp/~axtkendo/



新たななる発展を目指して



秋田県剣道連盟会長

鑑 喜 裕

梅雨明けが発表されないうまま足早に夏が過ぎ、実りの秋を迎えました。今年は、日照不足による農作物への悪影響が懸念される所です。

去る4月26日に開催された21年度の役員会において、多大な功績を残された長谷部誠前会長の後任として推挙され、はや6ヶ月が経過しました。これまで、今年度事業の半分に当たる11の各種大会と7地区における審査会が実施されております。また、大きな事業でありました「東北・北海道対抗剣道大会」が7月12日、本連盟の主管で開催されました。本県からは土田圭助、山田薫、村上健、田口昇、筒井洋美の5選手が出場し、健闘しましたが、団体戦は男女共に北海道軍の勝利に終わっております。7月25日、26日の両日、県立武道館で行われた日韓剣道交流会は、韓国から49名の小、中、高、一般の選手・役員を迎え、盛会裡に終えることができました。東北・北海道対抗剣道大会を担当された吉田雅宏先生、日韓剣道交流会を担当された小松誠先生始め、関係各位に深く感謝申し上げます。

さて、本連盟は、平成21、22年度の基本方針

『剣道の理念に基づき、高い水準の剣道人の育成に心掛け、郡市、各層への剣道普及を図り、県民、社会から高く評価される活力ある剣道界の実現を目指す』を基に、次の7つの重点項目を掲げております。

秋田県剣道連盟 運営組織図

平成21年4月～平成23年3月

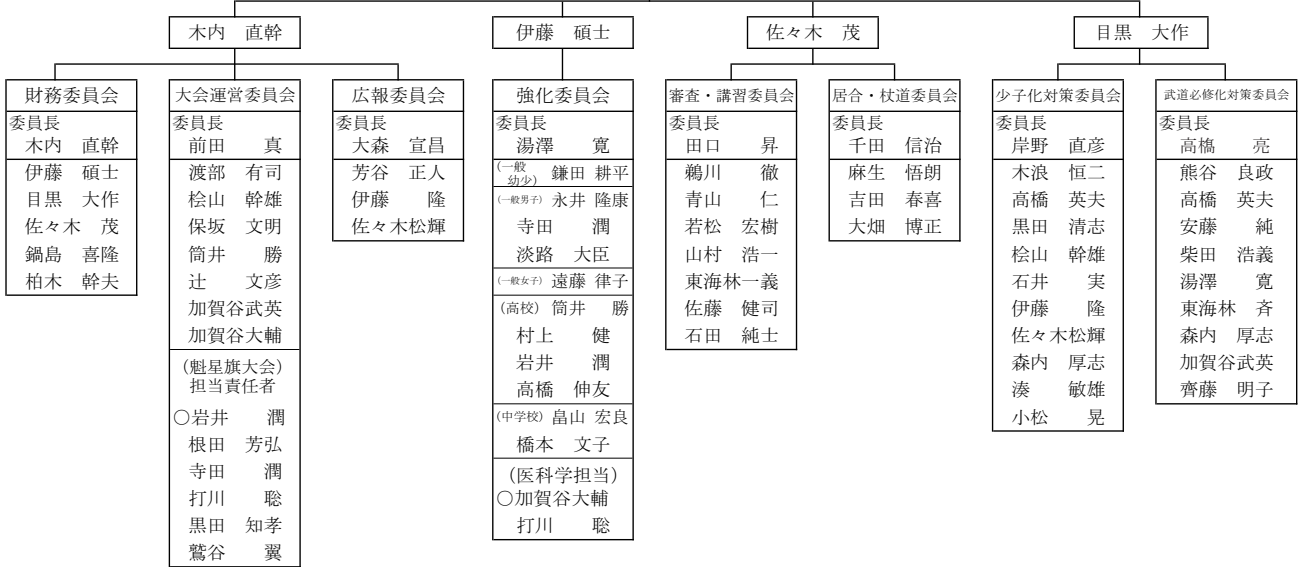
第52回東北・北海道対抗剣道大会 実行委員会(21年単年組織)	
委員長 吉田 雅宏	
高橋 勝吾・前田 真	
筒井 勝・芳谷 正人	
岩井 潤・山村 浩一	
桧山 幹雄・渡邊 明	
東海林 悟・柏木 幹夫	

会 長	名誉会長
鏡 喜裕	長谷部 誠

副 会 長	
伊藤 碩士・木内 直幹・佐々木 茂・目黒 大作	

理 事 長	副 理 事 長	事 務 局 長
鍋島 喜隆	大森 宣昌・小松 誠	柏木 幹夫

事務局員	
古戸 成子, 三浦 睦子	



1 剣道の正しい普及と発展、質の高い剣道を目指し、各種講習会の充実を図るとともに、級位・昇段制度の適正な運用を図る。

2 中学校における武道の必修化に伴う剣道に対する課題について検討する。

3 審判能力の向上、並びに試合・審判規則の厳正な適用を通じて、試合内容の充実を図る。

4 各委員会の連携強化のもとに、各種事業の円滑な運営を図るとともに、各郡市連盟、剣道諸団体の活動を支援し、組織全体の活性化を図る。

5 居合道、杖道の指導教育の充実を図り、普及・振興に努める。

6 財政健全化の諸対策に協力に取り組む。

7 県民、社会の剣道への理解・関心の深化を目指し、広報活動をより活性化して幼少年の底辺拡大の諸問題を解決するため、「少子化対策委員会」を設置する。

以上の重点項目を推敲するため、従来の運営組織を改編し、新たに「少子化対策委員会」と「武道必修化対策委員会」の新委員会を設置しました。

平成21、22年度秋剣連運営組織と担当は、上記の通りであります。

各委員における当面の課題は、「財務内容の抜本的な改善を図る」ことにあります。会員各位のご理解とご協力により、すでに実施されており

ます諸手当の改善、旅費規程の見直し等がそれでありました。大会運営においても、「効率的かつ効果的な各種大会の在り方」を検討して実施することが求められております。

「広報活動」では、郡市連、諸団体と県連との連携・強化を図り、横断的理解の浸透と一般社会に対する剣道のPRを活性化することが優先課題であります。

「強化」に関しては、秋田わか杉国体以降急速にレベルが低下している現状をどのように立て直すか、問題は山積しておりますが、長期的な見地に立って強化計画を練り直す必要があると考えております。

「審査、講習」については、本年10月から行われる昇級審査における3級までの「木刀による稽古法」の実施に伴う郡市連盟等の指導者の育成が急務とされており、委員会においての対応策の立案をお願いしたいところであります。また、郡市における審判法、指導法の指導者の育成も、併せて実施できるよう検討して参ります。

そのほか、各委員会において種々の問題点、改善点を積極的に取り上げ、新たな企画立案を行うとともに、各委員会間の横断的な連携調整と常務理事会との意思疎通を図りながら、組織全体の活性化を進めて参りたいと考えております。

会員の皆様の一層のご協力とお力添えをお願いいたします。

新設委員会の取り組み

剣道少子化対策委員会

委員長 岸野直彦



急激な社会の変化の中で、現在最も深刻な課題は少子化と高齢化の急激な進行です。とりわけ秋田県においては、子どもの占める割合(十四歳未満)が、都道府県別順位で全国最下位を示しています(総務省統計 平成二十年十月現在)。平成が始まる前の昭和五十年代のころまでは、各道場やスポ少においては、剣道に取り組む幼少年の数も多く、熱気にあふれていました。

しかし現在は、幼少年人口が激減している中で、練習や大会に向けてのチーム編成にも支障をきたしているのが現状であります。そこで今年度、この深刻な状況の改善の糸口を探るべく、秋剣連では運営組織の中に、新たに「少子化対策委員会」を設けてその対策に取り組んでいます。

○少子化に対する方策について
「委員会」では、対策が急務であると捉えて、これまでに剣道人口減少の実態とその背景についての意見交換や各道場やスポ少の協力を得てアンケート調査を実施し、それから浮かび上がった諸課題について検討を加え、方策を考えてきました。

一 秋剣連ホームページの効果的活用

ホームページに、県内の活動団体、活動場所、活動日の一覧を掲載して、剣道に興味や関心を持っている方々に情報を提供していきます。また、ホームページコンテンツを実施して、各道場やスポ少の活動内容を紹介していきたいと計画しています。

二 ポスターの作製について

秋剣連で募集ポスターを作製して、各道場やスポ少などの活動団体に配布し、公共機関や幼稚園・保育園、小児科医院等に掲示していただき、剣道への興味や関心を持っていただけるよう計画します。

三 表彰制度について

現在の、秋田県剣道連盟表彰規程での対象者としては「一、剣道発展に著しく功労のあった者、一、連盟が認める全国大会に於いて著しい活躍を示した者、または、これに準ずる成績の者の中から選出する」となっています。これに加えて、幼少年剣道の指導の面で、大会の成績とは関係なく、「草の根」的に地道に指導を続ける、剣道の底辺を支えている方々の功労に報いるために、「幼少年剣道教育奨励賞」のようなものを設けたいと考えています。

四 研修会・講習会の実施について

子どもたちに接する機会が多い若い指導者向けの研修会の開催や、若い指導者の技術力の向上を図るために、公認審判員の段位制限の



秋田県剣道連盟	
団体名	代表者
住所	TEL
連絡事項	

武道必修化対策委員会の取組について

委員長 高橋亮



一 はじめに
改正された教育基本法第二条第五項「伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」とともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」を受け改訂学習指導要領において、平成二十四年から中学校一・二年生において武道が必修化となりました。文部科学省では、各学校で武道を安全かつ円滑に実施できるよ

五 他競技の情報収集について

少子化対策に取り組む、その効果を上げていく他競技の事例を参考にするために情報収集を行います。拡大を図ります。

六 マスコミ等の活用について

剣道の活動状況について、今まで以上にマスコミ等に積極的に情報提供を図り、剣道の魅力を伝えていきたいと考えています。以上のように、少子化対策に着実に取り組んでいけるよう、方策を推進していきたいと思えます。(H21・7記)

う、武道場の整備(新設を含む)や防具等の購入に要する経費を地方交付税により措置するなど大胆な施策を講じています。

しかしながら、現行の学習指導要領においても、選択制ながら武道は実施されており、しかも大半の学校において剣道ではなく柔道が実施されているという現実を直視しなければいけません。このままでは、武道必修化といながらも剣道を実施する中学校がほとんどないということになりかねないという危惧を抱いているのが実情です。

二 なぜ剣道実施中学校が少ないか

各中学校において剣道を選択できない大きな理由として以下の二つのことが上げられます。

(一) 剣道を指導できる教師がいない。柔道は有段者でなくても、誰もが指導できるという容易性がある。また、たとえ剣道を指導できる教員がいても、人事異動でいなくなった場合、次年度から実施できなくなるという危惧が働き、なかなか剣道の実施ができない。

(二) 防具や竹刀等の用具を揃える予算がない。また、購入しても保管する場所等(悪臭)や修理(竹刀・防具)等、様々な問題点が発生する。

三 委員会の取組

前述した剣道を授業に採用する上で、の困難な点を改善し、少しでも多

くの中学校で、授業の中に剣道を取り入れてもらえるよう委員会として以下のような取組を行います。

(一) 防具をつけなくても、木刀や竹刀だけを使用して剣道授業が完結できる全体計画と指導計画を作成します。(学習指導要領に基づいた)

(二) 授業の実際をDVDとして作成し、教師がDVDを流しながらすべての授業を展開できるようにします。

(三) 剣道授業に活用できる外部指導者一覧を人材バンクとして作成し、市町村教育委員会に配布します。

(四) 体育教員の剣道指導研修講座の開設を県教育委員会に働きかけます。

(五) 県内を三地区に分け、各地区で三校ずつ剣道実践校を設定していただき先行研究をし、研究成果を県内各中学校に伝達します。(三年間で二十七校)

四 まとめ

中学校における武道必修化は剣道に対する理解者あるいは剣道応援団の増加の絶好の機会と捉え、少しでも多くの中学校で、授業の中に剣道を採用していただけるよう委員会としていろいろな取組を工夫していきたいものです。皆さんのお知恵を拝借できればと考えています。

(日21・7記)

平成21年度

秋田県立武道館剣道教室

(通年実施)

秋田県立武道館では毎週水曜夕方5時半から剣道教室を開催しています。対象は15時半から18時半まで初級コース(初心者、小学生経験者)、18時半から19時半まで中級コース(中学生、高校生)、19時半から20時半まで上級コース(大学生、一般)を設けています。

秋田県立武道館講師である目黒大



作先生(範士八段)と外部講師並びに外部補助講師による剣道教室には、常に総勢約70名が参加しています。

初級コースでは、初心者は防具を使用せずに、駆け足から竹刀の持ち方、挨拶などを学ぶなど、基本的な運動や礼儀から楽しく剣道をまなぶことができます。そのため、小学1年生の児童も毎週通っています。

お問い合わせは
秋田県立武道館事務所
(TEL 018-862-6651)

まで



シリーズ道場紹介 第一回

秋水館鎌田道場

● 師範または館長・経営者

鎌田 耕平

● 所在地

秋田県秋田市下新城笠岡字笠岡156

● 電話 018-873-7818

● 本道場の歴史

● 恩師の加藤正治先生、渡辺八郎先生を顧問に平成13年11月に開館。

● 平成15年4月より県内の各種大会に参加、上位入賞を果たす。

● 平成16年岩川力 全日本剣道少年団研修会（体験発表）で最優秀賞を受賞。

● 平成19年日本武道協議会より少年剣道優良団体として表彰される。

● 稽古日と時間



平成20年 内山杯優勝



平成20年 開館記念



開館記念によるピアノ演奏

月・水・金

午後5時30分～6時45分

（幼少年・低学年）

午後5時30分～6時45分（休憩）

午後7時～7時45分

（高学年・中学生）

午後7時30分～8時30分

（高校・一般）

● 稽古内容・指導要点

（幼少年指導）

● 基本重視の正しい剣道の指導。

● 文武不岐

● 本道場の特色

● 剣道をやりたい気持ちがあれば、誰でも稽古できる道場として、道場生以外でも多くの小・中学生が出稽古に来ている。

● 地域住民との交流

● 英国アパディーン剣道クラブと毎年交流。

● 英国アパディーン剣道クラブと毎年交流。

● 青森県小学生剣道錬成大会

平成18年 優勝

平成20年 優勝

● 秋田県少年剣道錬成大会

平成18年 優勝（高学年）

平成19年 準優勝（〃）

平成20年 優勝（〃）

● 秋田県少年剣道大会

平成18年、19年、20年

優勝（高学年）

● 秋田県剣道道場対抗錬成大会

平成18年、19年

優勝（高学年）

● 平成20年 準優勝（高学年）

● 会費

月謝 2,000円～5,000円

（兄弟割あり）+協力金（一世帯

1,500円）

入館料 300円（月謝以外の人

で、六段以下の方）

■ 奥檜館 ■

● 師範または館長・経営者

小松 晃

● 所在地 秋田市牛島東7-10-22

● 電話 018-834-5063

● 本道場の歴史

平成13年7月設立

● 奥山京助先生が師範、檜山太郎先生が副師範を擁する興陽館道場に入門。

● 25年間両先生に師事し、平成13年7月に両先生の一字をいただき『奥檜館道場』と命名し、子供達に故奥山先生の教えを継承している。



道場に故奥山先生の写真を飾り道場の宝としている。

●稽古日と時間

月・火・水・金・土

(月～金) 4時～8時30分

(土) 4時～7時30分

●稽古内容 指導要点

基本を中心とした指導

●本道場の特色

試合本意でなく剣道の楽しさを教えている。

●指導者数 2名

●門弟数 幼少年38名 中高生1名

一般・大学生18名

●最近3カ年の主な試合戦績

全県大会第3位

●会費

小中生 5,000円

幼・大人 3,000円

平成21年度大会・審査会記録 (九月まで)

■第31回全日本高齢者武道大会

今 功夫 教士 準優勝

■第46回東北地区高専体育大会

剣道競技

■第52回東北・北海道対抗剣道大会

■日韓剣道交流会

■平成21年度全日本少年少女武道 (剣道) 錬成大会

■第44回全日本少年剣道錬成大会

■第40回全国高等学校定時制通信制剣道大会

女子団体3位、個人優勝

■第52回東日本医科学生総合体育大会

剣道競技

■第36回東北総合体育大会剣道競技

成年男子 優勝

■第44回全国高等専門学校大会

秋田高専 三位入賞

■剣道六段審査会 (秋田県立武道館)

第31回 全日本高齢者武道大会で 今 功夫 教士が準優勝

6月8日東京・日本武道館で開かれた第31回全日本高齢者武道大会 剣道80～84歳の部で、準優勝を果たした。

同部には全国から52人が出場。今さんは予選リーグで2戦2勝を挙げ、13人による決勝トーナメントに駒を進めた。同トーナメントでは1回戦、準々決勝、準決勝と勝ち抜き、決勝は徳島県の選手と対戦。コテを決められ惜しくも敗れたが、堂々の準優勝に輝いた。



全日本高齢者武道大会剣道80～84歳の部で準優勝した今さん

第46回 東北地区高専体育大会 剣道競技

7月4日～5日、秋田県立武道館で開催した東北地区の高専剣道大会において、秋田工業高専が見事6連覇を達成した。

第52回 東北・北海道対抗剣道大会

7月12日(日) 秋田県立武道館を会場に、東北、北海道の精鋭が集い開催された。

東北・北海道の各軍30名での対戦が行われ、北海道軍が13勝12敗5分の成績で勝利を収めた。

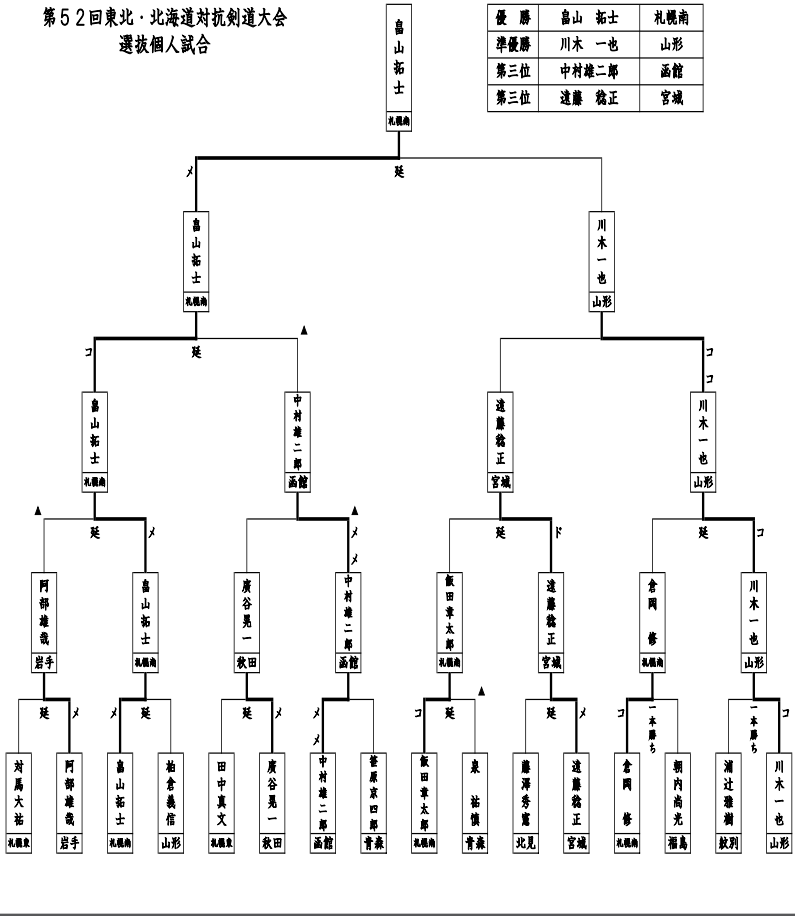
女子対抗戦も、北海道軍が1勝0敗5分けの成績で勝利した。

選抜個人試合は、北海道 畠山拓士 選手対 東北(山形) 川木一也 選手の決勝戦がおこなわれ、延長戦の末、北海道 畠山選手が優勝に輝いた。



第52回東北・北海道対抗剣道大会
選抜個人試合

優勝	富山 拓士	札幌南
準優勝	川木 一也	山形
第三位	中村雄二郎	函館
第三位	遠藤 義正	宮城



第52回 東北・北海道対抗剣道大会
女子団体戦

北海道軍	先鋒	次鋒	四将	三将	副将	大将																																				
	四段	五段	六段	六段	六段	七段																																				
	吉田 佳世	竹本 まゆ	山本 由香	北本 薫	太田 洋子	園田 志保																																				
	札幌南	札幌南	札幌北	旭川	札幌東	札幌西																																				
成績	<table border="1"> <tr> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>コ 一本勝ち</td> <td>×</td> <td>メ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>メ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						〇						×	×	×	コ 一本勝ち	×	メ						メ						△												
	〇																																									
×	×	×	コ 一本勝ち	×	メ																																					
					メ																																					
					△																																					
東北軍	先鋒	次鋒	四将	三将	副将	大将																																				
	四段	四段	五段	五段	六段	七段																																				
	松永 美弥	平山 あゆ	石岡 民子	伊藤真貴子	筒井 洋美	五十嵐裕子																																				
	福島	山形	青森	岩手	秋田	宮城																																				

勝数	得本数
1 勝	2 本
0 勝	1 本

第52回 東北・北海道対抗剣道大会男子団体戦

	勝数	得本数
北海道軍	13 勝	23 本
東北軍	12 勝	20 本

北海道軍	先鋒	次鋒	28将	27将	26将	25将	24将	23将	22将	21将	20将	19将	18将	17将	16将	中堅	14将	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将
	五段	五段	五段	五段	五段	五段	五段	五段	五段	五段	六段	六段	六段	六段	六段	六段	六段	六段	六段	六段	七段	七段	七段	七段	七段	七段	七段	七段	七段	七段
	飯田章太郎	倉岡 修	植根 由起	中村雄二郎	林 豊大	野口 尊	中田 幸直	奥山 訓史	富山 拓士	佐藤 勝也	毛利 憲誉	藤澤 秀寛	佐藤 洋	北本 武	石川 雅規	福井 雅一	稲毛 利宏	下川 公弘	野崎 考史	村部 泰弘	波間 英雄	榑田 高德	福島 一樹	柴花 直輝	児玉 智	佐賀 聡	柴花 英幸	佐賀 豊	伊藤 孝司	芳賀 徹
	札幌南	札幌南	天塩	函館	札幌南	月形	札幌南	砂川	札幌南	札幌南	札幌東	北見	函館	旭川	札幌南	紋別	石狩	札幌東	苫小牧	月形	旭川	札幌中央	旭川	札幌南	札幌南	札幌南	札幌北	札幌南	札幌東	金十勝
成績	〇	×	〇	〇	×	×	〇	×		×	〇	×	〇		〇	×		×	×	×	〇	×	〇	〇	〇	〇	×	〇		
	メ	一本勝ち	コメ	延長	延長	延長	一本勝ち	延長	延長	一本勝ち	一本勝ち	延長	ド	メ	メ	コ	コ	コ	一本勝ち	一本勝ち	延長	延長	ド	メ	ド	ド	コ	メ	メ	
東北軍	佐藤 和浩	菊地 崇	佐藤 篤志	土田 主助	三上 学	松名瀬天志	阿部 雄哉	土門 幸範	遠藤 稔正	川木 一也	齋藤 静香	山田 薫	澤田 裕和	布施 雄之	盛合 亮	井田 貴哉	高沢 公也	石田 充	小笠原博幸	日山 信夫	川井 正喜	滝田 勝彦	本多 信弥	佐藤 啓	新村 浩志	阿部 祐仁	板橋 政樹	下川 祐造	田口 昇	
	山形	岩手	福島	秋田	青森	青森	岩手	山形	宮城	山形	福島	秋田	宮城	山形	岩手	青森	宮城	山形	青森	岩手	山形	福島	福島	宮城	秋田	宮城	青森	青森	岩手	秋田



日韓剣道交流会

7月25日～27日の3日間、日韓剣道交流が行われた。秋田県の剣道関係者と韓国との交流は1990年から始まり、今年で10回目になる。この間毎年、相互に訪韓・訪日が行われてきた。

高校生の交流がほとんどであったが、今年は韓国・京畿道剣道会の小学生、中学生、高校生、一般の総勢49名の来日となった。25日の歓迎レセプション、県立武道館大道場・剣道場、潟上市立天王剣道場で行われた合同稽古、練習試合で交流を深めた。

平成21年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会

平成21年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会が7月25日～26日、日本武道館で行われた。

大会2日目(7月26日)第7ブロックにて、本県から出場した雄信館内山道場が敢闘賞に輝いた。

第44回全日本少年剣道錬成大会(道場連盟)

第44回全日本少年剣道錬成大会(道場連盟)が7月28日～29日、日本武道館で行われた。

小学生団体戦(531チーム参加)で、本県から出場した角間川道場がベスト8の好成績を収めた。



第40回 全国高等学校定時制
通信制剣道大会

団体戦女子の部で本県チームが3位に入賞。個人戦女子の部に出場した秋田県立明德館高校・掛田選手が見事優勝した。



第52回 東日本医科学学生総合
体育大会・剣道競技

東日本地区の医学部、医科大学の大学生による剣道競技が、8月8日、8月9日にわたって秋田市立体育館を会場に行われた。参加大学は35大学であった。

男子団体は弘前大学医学部が優勝。女子団体は地元・秋田大学医学部が2連覇。

男子個人は本年度全日本学生選手権3位の慶應義塾大学医学部・胡谷選手、女子は福島県立医科大学の矢作選手が優勝した。

第36回 東北総合体育大会
剣道競技で成年男子優勝

8月22日・23日、青森県野辺地町において東北総合体育大会（ミニ国体）が開催され、成年男子が優勝を果たした。成年男子の優勝は9年ぶりの快挙。



第44回 全国高等専門学校体育大会
(剣道)

8月23日行われた高等専門学校全国大会（北九州市・若松体育館）で、東北代表の秋田工業高等専門学校チームが男子団体戦・全国第3位の優秀な成績を収めた。

剣道六段審査会

8月30日、秋田県立武道館で剣道六段審査会が行われた。全剣連主催の段位審査会は、平成10年の六段審査会以来11年ぶり。全体の合格率は10・4%の厳しいものであったが、本県受験者の合格率は11名、合格率は15%であった。

特別寄稿

日本武道館は立派だった



剣道教士七段
今 功夫

日本武道館が今から五十二年前に建てられた筈だが、皇居北の丸に日本一の武道館を建て日本武道の殿堂にしたいということで剣道界をはじめ多くの方々から言われていた。全

国の識者が動いたが、特に活躍されたのは当時の読売新聞の馬場恒吾社長さんを中心とした多くの方々だったと記憶している。

私は秋田青年師範学校の助教授と秋田師範学校の講師を兼任していたが事情があって住所が横手市に移った。そこで私の講義の専門内容が必要とする職場へ移ることになり応用生物学を講ずる大曲農業高等学校に奉職した。大曲農業高等学校では実験実習も多くしたがクラブ活動で剣道を十分に稽古ができた。国体で優勝したのもその頃である。

全剣連に協賛し皇居北の丸に壮大な武道館をつくり日本における武道の殿堂を建設することになった。その頃、三十才と少し位の若造であったが建設の趣旨に大賛成し、当時月給百円一寸位だったと思うが武道館建設の趣旨に賛成して参萬圓を寄付したことを覚えている。そして日本武道館という素晴らしい日本を代表する大道場が出来たのである。しかし一回も参上する機会のないまま時間が過ぎていった。それが建築されて四十年も経った頃、上京する機会に地下鉄の広報紙を見たら全日本家庭人剣道大会の記事を見た。それが日本武道館に行った最初であった。秋田県チームは遠藤律子先生の監督で出場していた。はじめての武道館なので全く分らないまま飯田橋駅で降りて北の丸の日本武道館にいったみた。先ずその広さに吃驚してしまっただが試合場が十何面あってその規模

の大きさに驚いたことを記憶している。それ以来、上京する度毎、剣道の大会があれば時間を見て日本武道館に参上し大会を見学していた。そして『この立派な武道館で試合をしてみたい』と思うようになっていった。それで三年前にはじめて『全日本高齢者武道大会』に出場申込みをした。武道館では館内に入ってみたら右も左も分らない状況で十三試合場のどこでやるのかも分らず雲の上にいる様な感じでしたが、二回目からは少しずつ様子がわかって自らの試合場がどこか程度は解って出場できる様になった次第。一回目の出場は予選落ち、二回目三位、次回は出場申込みの期日を失念し欠場、三回目の実際の出場では軽うじて二位、三位の次が二位だったことから、皆さんの中には二位の次の来年は優勝だろうと冗談を言う方もおられたが、剣道はその様にはいかない競技だと良く知っております。予選を通過すれば最高の幸運だと思います。健康と相談して良ければ又、出てみたいと思います。

これまで秋田県の選手では、渡辺八郎先生、木内由次郎先生、小池泰左右先生(故人)が優勝されております。凄く偉いことだと心底から敬意を表しております。連盟の皆さんよろしくお願い申し上げます。



平成21年度居合道・杖道
大会・審査会記録

■第105回全日本剣道演武大会(居合道)
5月2日(土) 京都武徳殿
演武者7名

■第11回東北地区杖道講習会
主管 青森剣連
5月23日(土)～24日(日) 受講者10名

■秋田県居合道講習会
県立武道館・剣道場・小道場
5月31日(日) 受講者59名

■秋田県居合道級審査会 県立武道館
5月31日(日)
受審者13名、合格1級12名、2級1名

■居合道六・七段地区審査会(青森県)
6月12日(土) 合格六段 伊藤祝男

■居合道地区講習会(青森県立体育館)
6月13日(日) 受講者13名

■秋田県杖道伝達講習会・級審査会
(県社会福祉会館)
7月5日(日) 受講者17名

■第32回秋田県居合道段別選手権大会
(県立武道館)
7月19日(日) 参加者44名

■第36回東北居合道大会
(宮城県・岩沼市)
9月5日(日) 個人演武者10名

■秋田県杖道講習会・級審査会
(旭川コミセン)
9月27日(日) 受講者12名

■秋田県居合道伝達講習会・級審査会
(県立武道館・剣道場) 受講者47名



秋田県立武道館

行事風景



恩師の思い出



剣道教士
檜山 太郎

「若者は輝く未来を語り、老人は過去の思い出を語る」と云う。人はそれぞれ多くの思い出を持って生きているが、剣道は私の人生そのものである。久しくペンを執る機会も無かった高齢の私ですが、この稿の依頼を受けて遠い青春時代を、顧みたいと思う。

剣道への第一歩（小・中学時代）

父の指導で剣道を始めたのが、小学校一年の時。引続き中学校では、早大主将として活躍された小西達四郎、海軍で鍛えられた実践派の進藤禎亮、武専卒の本格派古川汎仁の各先生方であった。春夏秋冬厳しい指導を仰ぎ、或る時は、板の間を這いのめり、羽目板にぶつけられ、又、突き飛ばされ乍らも皆齒を喰いしばり猛稽古に耐えた事等今思えば只々懐かしい。特に古川先生は、有名な「目明しの半治」として恐れられ、特技は、倒れた生徒の腹に馬乗りし、グイグイ頭を持ち上げ、次は両足で

腹を締めつけ、最後に、急所をグイと鷲掴み「どうだ、参ったか」と笑って終りとする等、鬼と云われた厳しさの中にも、ユーモア溢れる言葉で、部員を泣き笑いさせる程テクニクの優れた指導者でもあったと思う。先生のこのようなお人柄が、時を経て、戦後健康を害し剣道とは縁遠い日々を過ごしていた頃、突然電話があり「オイ、太郎元気を出せ、今度横手で東北剣道大会があるぞ、選手の前頭にたつて入場行進やれヨ」と云われ重い気分でプラカードを持ったが、病後の私に対する恩情溢れる励ましの配慮だったと、今でも胸の熱くなる思い出である。

人生の指針となった一言（武専時代）

古川先生の勧めで迷う事なく武専に進学はしたものの、第一印象は度肝をぬかれるような事ばかり。紋付袴姿の武専生の「オッス」の挨拶は厳めしく「これは田舎者の来る所ではなかった」と脅えるばかり。当ても武専入学は大変なことで、定員二十五名、競争率七倍強と厳しく、しかも受験生の殆どが、全国各地大会の覇者ばかりで、無名の私は合格しても心躍る筈もなく、武専一年時は、戸惑う事ばかりでただ懸命に励んでいても、日に四、五発の洗礼は茶飯事で一年の三学期を迎える頃になると自信喪失に陥った。主任小

川金之助、宮崎茂三郎、黒住龍四郎、佐藤忠三、若林信次先生等々、天下を風びした高名な諸先生方の眼光は、私の胸を貫くように鋭かった。荒稽古に耐えられず退学した者もいたし、周りは身体の恵まれた人ばかり、身長一六〇cm体重60kgの私では「もう太刀打ち出来ない」と。その心情を佐藤忠三先生に吐露した。先生は「よし分った。ところで檜山眼は大丈夫か」「はい大丈夫です」「そうか眼は大丈夫か」と云ったきり、暫く口を閉ざし、おもむろに口を開くと「檜山、眼はなあ、身体の大きい小さいに関係なく同じなんだよ、一、二、三、四」と云う教えがあるように、眼が剣道では一番大切なんだ、それをどう活かすかだ、迷わず剣道をやれ」先生のその一言で目の前が明るくなり、気分がすく楽になった。努力の甲斐あって動きに応じた捌きが出来ると、身体の中のハンデは嘘のように気にならなくなったのである。

省みると戦時中に病んだ身と対座しながら、今年九十一才を迎えた。武専出身者としては、紆余曲折の剣道人生で、三十年近く剣道から遠ざかったが、その間も己の心を支えていたのは紛れもなく、剣道の精神であり、偉大なる恩師の教導であったと思う。

秋田県剣道連盟ホームページ

秋田県剣道連盟ではホームページを開設計、年間行事や試合結果を随時更新しています。今後は小学生剣士による作文の掲載を予定しています。秋田県内における剣道・居合道・杖道関連の情報や大会結果を取得する際に「活用ください」。

URLは

<http://www.18ocne.jp/~xkendo/>

編集後記

紅葉の季節となり、日ごとに深まりを感じる。

鏡新会長の巻頭言にあるように、平成二十一年から二十二年度の新体制が確立し、県連の運営組織を一層強化発展させるために、あらたに「少子化対策委員会」と「武道必修化対策委員会」が設置された。二委員会とも、これからの剣道界の最重要課題を検討中である。進捗状況をよくお読み頂ければ幸いである。

今回もご多忙中、諸先生より玉稿を賜った。厚く御礼申し上げます。

本広報誌は、平成十九年わか杉国体完全優勝特別記念号以来の発行であるが、本誌が引続き会員はもとより県民、社会から高く評価される秋田県剣道連盟活性化につながれば、委員一同の無上の喜びである。

(NO記)

編集

秋田県剣道連盟広報委員会

大森 宣昌・伊藤 隆
芳谷 正人・佐々木松輝